

1 「育む」子育てとは

「育つ」と「育てる」と「育む」って、漢字は一緒でも送り仮名が変わると、言葉の感じは変わってくるよね。

「育つ」って、そのもの自体が伸びゆくことだから、主語だけ付けたらいけるよね。

子どもが育つ。人が育つ。花が育つ。犬が育つみたいに。

元々そのものが持っている本能、本能として育つという、伸び行くというように、本能として備わっているものなんです。

みんなそれはある。どんな存在でも、雑草であっても。

雑草というのはね、人間が勝手に（雑草と）決めているだけだからね、草花でも。元々本能として備わっている力が「育つ」ね。

でそれを、その本能が本能らしく、ちゃんと機能するように環境を整えるのが「育てる」。

だから環境の中には人も含まれてるよね。人も含めて、一番大きな環境が人だからね。

その本能が本能らしく、妨げられないように。本能を発揮できるように、いい感じに伸びていくように、環境を整えていくのが「育てる」ということ。

ここに来たら、「育つ対象」と「育てる対象」が、登場人物が二人になるよね。人物とは限らないけれど。

草を育てるのは人間やったり、子どもを育てるのは親であったり、先生であったり。「育つ」対象と「育てる」対象で、登場人物が二人になってきたところから、意図の食い違いが出てくるんよね。

本能としては、「こんなふうに育ちたい」という本能があるのに、育てる側が「こんなふうになってほしい」、「あんな風になってほしい」と。そこが一致している間はいいんだけど、食い違いが出てくると色々とややこしい事が起こってくる。

口で言って、言葉で聞いていると「そんなの当たり前でしょ」って思うでしょ。たいがい「なんか上手いこといかないな、しんどいな」と思う時は、そこが上手くいってない。そこが食い違っている、実はね。でもそこに気が付かへんのよね。

はじめて一生懸命であるがゆえに、「あーしなくっちゃ」という思いがどんどん、どんどん強くなるからね。

「育てる」と「育つ」、もう一つが「育む」。

この絵ね、羽包む。色々説はあるだろうけど、一説には、語源は「羽・包む」から来たりする。親鳥がひな鳥を羽でそっと、ふわっと包んでるみたいな。

「羽包む（はづつむ）」がなまってというか、「羽包む」が「育む（はぐくむ）」に発展した。

だからイメージは、この絵のように、羽でふんわり包むみたいな。

私的には、語源はこの「ハグ+酌む（汲む）」ですね。

人間、どんな時にハグするかってね、大好きとか、愛おしいなというときに、ハグするで

しょ。こんな顔ですよね、大体ハグするときって。怖い「しかめっ面」でハグしないもんね。

外国人同士の要人とかが、タラップから降りてきて、いきなりハグしたりしますよね、「初めまして」と。でも、あれは大好き（のハグ）と違いますよね。

「初めまして」でも、ハグをするというのは、「あなたの敵じゃないですよ。」「あなたのことを受け入れますよ。」「ようこそ」で、「あなたのことを受け入れますよ」というのもそう、「愛おしいな」、「大好き」というのもそう。

こっちの「酌む」は、お酌の酌で、お酒を酌み交わすの「酌む」ですね。お酒を酌み交わすときは、アルコールハラスメントなんていう言葉があるくらいだから、相手のペースに合わせて、相手の飲みたいものを、相手が「もういらない」と言ったら、こっちもやめとくし、相手に合わせて、お酒を酌み交わすでしょ。

こっちの「汲む」は、常用漢字じゃないから、括弧にしましたけど、さんずいが付いてるから水を汲み上げる。「すくう」という「汲む」ですね。

昔の水を汲むは、井戸の底に「カー」と下ろして、カーッと桶みたいなやつでね。「鶴瓶（つるべ）落とし」と言うでしょ。カーッと落として、ワーッと上げてきて、底の方から水を汲み上げてくるね。この意味を全部合わしたのが「育む」なのよ。

どういうことか。

自分が「あーしたい、こんなふうに育てたい、こんなふうになってほしい」というよりは、相手の状況を、よく見て、相手の状況に合わせて、相手のテンポに合わせて、ペースに合わせて、で、今どんなことを感じてのかな、どんなふうに思ってるのかな、どうしてほしいと思ってるのかな、というように相手の心情、心、見えないところに思いを至らせ、底にある思いを、底の方まで、見えないところまで、言ってないところまで、口ではそんなこと言うてるけど、本当はどんなことを思っているのかなと。

心の奥深いところまで汲み取って、そこを全部おもんぱかって、その上で全部を受け入れますよと。それが「育む」。

だから、「スバルタで育てる。」っていう言葉はあっても、「スバルタで育む。」はないでしょう。相手のペースに合わせているかどうか。

今日の話は、全部ここの1枚に集約されてるぐらいの、何を忘れても、この絵を思い出してもらつたらいいよ。というぐらいです。

「育む」が出来なくなってるときは、「なんかイライラする」とか、「不安が募る」とか。大人のイライラの要因は、「時間がない。」、「自分のコンディションが悪い。」。二大デンジャラスタイルです。

子どものデンジャラスタイルは、「お腹減った。」「眠たい。」ですね。これと同じ、コンディションが悪い。あと、「疲れた」（という）方の「しんどい」。疲れたという自覚がないのよ。「これだけしたら疲れるからもうちょっと加減しこう」（という発想）はないんです。

これ（急いでいる、自分の体調が悪い）がなかったでしょ。子どもの4大デンジャラスタイルの中には。これ、大人だけなのよ。

だから、こっちはイライラとしてるのに、悠長にやってるように見えて、「早う（く）、早う（く）」って思って、余計にイライラするよね。

だから、どれだけこっち側に心の余裕を持つか、時間の余裕を持つか、それが難しいんだけど。出来なかったとしても、この不安はどこから来てるのかとか、自分のイライラはどこから来てるのかとか、理由がわかるだけでちょっと落ち着いたりするからね。

「ああ、これや」と、「これや」と気づく。気づくためにはその冷静さがいるからね。冷静さがあつたら気づくから。だから、何でイライラしているのかな、何で不安になっているのかなと考えることは、とっても大事です。考えると、本能とか感情の暴走を抑えられるからね。で、心の中には今こんなんがありますよって。

「今この状態になってるから、不安になってるんだな。イライラしてるんだな。」と認めてあげる。自分の感情を。

「比べたらあかん、比べたらあかん。」とか「気にせんとこう、気にせんとこう。」とかね、「目に付かないようにしよう」と思えば思うほど、そっちに突っ走るから。

「ああそうやな。」「だからイライラしてたんだ。」「だから不安になってたんだ。」でいいからね。

理由がわかつたら、ちょっとこれで落ち着くなと思う。イライラになっているときは、「ああそうか、これでイライラしてたんだ」「ああこれで不安になったんだ」と思った上で、「育む」に立ち戻るには、「あゆみ」のペースを揃える。

「あゆみ」のペースが「親子で」と書いてるけど、“今向き合ってる人”でいいよ。今向き合ってる人で。

お互いのペースが違う。「育てる」と「育つ」側と。何かちょっと食い違ってるみたいなときだからね、立ち戻るには、いい意味で「あきらめる」ね。

今はまだこれを求めるときじゃないんだ。今はまだちょっと早すぎたのかな。ちょっとこれじゃなかったかな。じゃあちょっと今は置いとこかって。

「ゆるす」は、相手を許すもそうやけど、自分も許すね。自分も許す。こうあらねばとか、こうするべきとか、なんかいろいろね、自分で自分をがんじがらめにしてる部分があるから、そこも、自分も許すね。

相手のことと自分のことちゃんと「みとめて」、相手を「みまもる」。相手のことを見守る。信じて見守るね。